

HPV ワクチン（子宮頸がんワクチン）の接種をお勧めします。

令和3年11月に国の方針が大きく転換され、HPV ワクチンを積極的にお勧めする方針となりました。

積極的に接種をお勧めすることを差し控えたこの9年間に様々な知見が蓄積され、強力な子宮頸がんの予防効果が証明され、接種の副反応のリスクを大きく上回ることが明らかになったこと、稀な重い副反応への対応する医療体制が整ったことなどがその理由です。

<概略>

子宮頸がんは誰でもなり得る「がん」です。

また、他のがんと異なり 20代～30代でも発症が多く、予防する価値が大きい病気です。



<予防効果についての補足>

定期接種（無料のワクチン）は予防効果が約60～70%とされていますが、重要である若年者の子宮頸がんの予防効果は90%近くに及びます。（信頼性の高いデータです）



<子宮頸がん検診だけでは不十分です。>

- ・ 現実問題として妊娠するまで子宮頸がん検診を定期的に受ける若者は少ない
- ・ 検診で早期発見できない可能性もある
- ・ 早期発見しても、治療のために不妊や早産のリスクが増える

HPV ワクチンも予防効果は100%ではないので、HPV ワクチン+子宮頸がん検診の組み合わせがベストです。

令和4年5月8日 さかたこどもクリニック